

Japanese Examined Utility Model Publication No. 29-338
published on January 19, 1954

Title of the Device:

Scissors

Application No.: 27-3151 filed on February 13, 1952

Inventor: Kazumi Takehara

Applicant: Kazumi Takehara

Relevant part of the Publication

A large handle ring 1 is located inside of an extended line A from a scissor body 2. A recess 4 is formed between a pivot 3 and the large handle ring 1. A tail end of the handle is shifted outside of an extended line B.

123 A 41
(74 B 1)

特 許 庁
実 用 新 案 公 報

実用新案出願公告
昭29-338

公告 昭 29.1.19 出願 昭 27.2.13 実願 昭 27-3151

出願人 考案者 竹 原 一 味 三條市大字西新保1129
代理人 弁理士 坂 井 克 吉

(全2頁)

裁 物 鉗

図 面 の 略 解

図は本案の形状を示すものであつて第1図は柄部の側面図、第2図は平面図、第3図は全体側面図であつて其の使用状態を示すものである。

実用新案の性質、作用及効果の要領

本実用新案は裁物鉗の形状に係るものであつて図面に示す様に公知の裁物鉗に於ける柄部の大握輪1の位置を鉗身2の延長側線Aより内方にし又軸3との中間に側線Aとの間に人指が挿入出来る様な窪部4を設け且柄部の尾端を延長摺接線Bより外方に外れる様に屈折してなるものである。

本案は第3図に示す様に窪部4に人指を当てゝ使用するものであつて母指と外3指の3点に於て握持されるものであつて鉗の安定が非常に良く更に又大握輪1を延長側線Aより内方にしたために鉗を裁板面C上を摺動する場合身体の位置との関

係上極めて使い易いものである。又柄部の尾端を延長摺接線Bより外方に外れる様に屈折したために布を裁断するに際し握り部分が中心線より外れて居るので前方の見透しがよく且つ手の位置を自然に応じされる様にしたものであつて非常に使い易くなつたものである。

以上の様に鉗の柄部の形状を改良したことによつて鉗の使用効果を著しく増大したものであつて之が実用的効果極めて大なるものである。

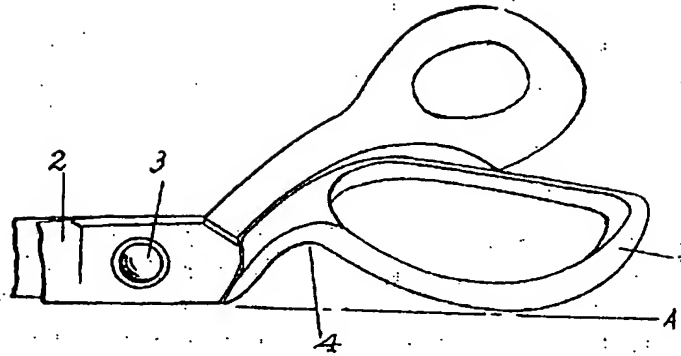
登 録 請 求 の 範 囲

図面に示す様に公知の裁物鉗に於ける柄部の大握輪1の位置を鉗身2の延長側線Aより内方にし又軸3との中間に側線Aとの間に人指が挿入出来る様な窪部4を設け且柄部の尾端を延長摺接線Bより外方に外れる様にした裁物鉗の形状。

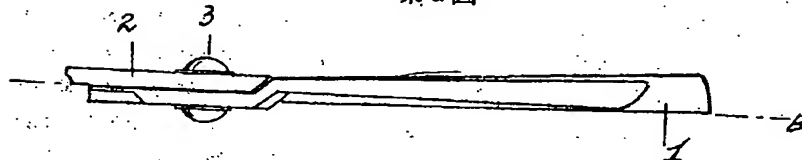
(2) -

實用新案出願公告
昭29-338

第1圖



第2圖



第3圖

